

目 次

1. アミーぬまづ	2
地域女性史づくり	
2. ウーマン・ラボ	4
知ろう！私のカラダ★セミナー	
3. NPO i-OLIVE	8
働き女子のほっとカフェ	
4. NPO 法人世界女性会議ネットワーク静岡	14
シニア女性のための防災手帳	
5. 株式会社レ・サンク	16
「ハーブ & ドロシー」上映会とミニ講演会	
6. 県東部文化交流会・和	20
イクメンジーとバーの子育て奮闘記	
7. 静岡エコセトラ	24
「私の生まれた国 私の住んでいる静岡」	
8. 特定非営利活動法人 Safety First 静岡	30
デートDV防止啓発連続講座「これってデートDV？」	
9. 誕生学アドバイザー静岡県講師会	34
小中学校における誕生学®プログラム協働事業	
10. 共同参画ワーキンググループ True Colors Planning	40
僕らの家庭科 ～職人（プロ）に習う暮らしのコツ～	
11. みしま女性史サークル	48
「人生、いろどり」上映会&ミニ講演会	
12. もりうさ まちづくりカフェ	52
ママのイキイキ応援プログラム	

<資料>

- 実施団体一覧・実施案内ちらし
- 実施要項・募集ちらし
- 報告会ちらし

アミーぬまづ 代表 根上茂美 地域女性史づくり

「富士のふもとで」

沼津・長泉・清水町女性史聞き書き



1. 事業理念（目的）

＜対象者＞

●沼津市、清水町、長泉町の地域女性史づくりに関心がある人。

●沼津市、清水町、長泉町に住む大正～昭和初期生まれの女性
（取材対象）

＜期待される効果＞

沼津市・清水町・長泉町の女性がそれぞれの地域に暮らす女性の人生を聞き書きすることで、その地域の歴史、風土に培われ、現在の私たちに繋がる女性の歴史を再確認する。

また、商圈や通婚圏を一にしていることや、近隣であっても街の成り立ちや風習の違いがあることなど、お互いの理解を深める。

地域女性史づくりを継続し、自立した事業を目指す。

2. 事業内容

●地域女性史・聞き書き取材の継続

7月～10月

●振り返りと継続のための講座・交流会

日時：2013年11月20日

13：30～15：30

会場：長泉町いずみの郷

講師：平井和子さん

●冊子印刷製本

取材対象 11名

聞き書き・製作参加者 23名

3. 事業の効果

●清水町

「論文」という形で、生活改善運動が戦後の人々の生活の指針となり、経済格差の不平等をなくし、民主主義の拡がりに貢献していく姿がいきいきと語られている。

●長泉町

あこがれの産婆となった芹沢さんの聞き書きでは、制約が多かった戦前の女性の暮らしの中でも、養母からの励ましと、ロールモデルとなる女性の存在が語られた。

戦争という時代を生きる人達の生き延びる知恵（農業に従事すれば、徴用を免れるというので、娘2人を農業の手伝いにした父親）また徴用先として「アミノ酸」という粉末醤油や味噌を作る工場が沼津にあったという話が、2人から語られ戦時史が新たになった。

その他、父母会会長を引き受けて、最初は父親が原稿を書いた物を読むだけだったが、自分の言葉で話さなければと、力を付けていった増島さんなど、個人史を語りながら、女性全体の社会との関わりの変化が、重ね合わせて見られるなど、女性史ならではの特性を活かした物もできた。

●沼津

沼津は女性センター、児童館、公民館がない街である。幼稚園も昔からお寺や教会が経営している園が多く、公立幼稚園は大平地区と近年合併した旧戸田村のこども園だけである。農村だった大平地区で沼津唯一の公立幼稚園設立に尽力した女性がいたことを知り、改めて女性の力を、行政に活かしていくことが大事と感じた。

文化活動においても、女性の力が大きいと感じさせたのは、村松さんの聞き書きだった。シングルマザーとして生きる道を選び、様々な仕事を経て市民劇場の運営で、沼津の文化活動に大いに貢献した女性だ。

<まとめ>

それぞれの街の成り立ちが異なりながら、通婚圏や商圈を一にしていることや、女性の力が今の街の在り方に大いに関与していることが、解った。また、聞き書き参加者も、身近な人に先人として語ってもらい、その人柄や功績を深く知ることができ、現代の自分達に繋がる時の流れを再確認できた。



●目次から

沼津市・長泉町・清水町の女性たちの歴史に寄せて

あこがれの産婆になって

長泉町農協婦人部の設立

ボランティアと私

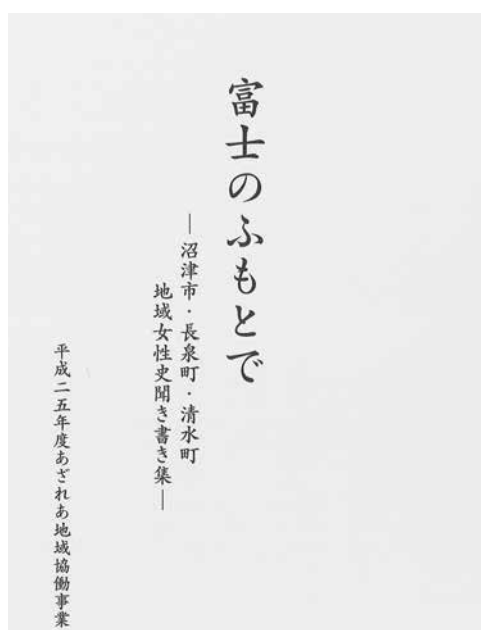
災害を乗り越えて、今

父母会活動から始まった私の社会活動

論文「清水町の生活改善運動よ誇りあれ」

沼津に唯一の公立幼稚園

沼津市民劇場を育てあげた人



ウーマン・ラボ 代表 有賀久美 知ろう！私のカラダ★ セミナー



講師：内田律子院長

1. 事業目的

現在、女性の社会進出や晩婚化によって、妊娠適齢期を過ぎ、妊娠しづらい女性も増えている。今回、「女性のカラダと妊娠」についてのお話を聞いてもらう事で、まず将来妊娠するかもしれない女性が、いつか妊娠するときのために、今できる事を知ってもらったり、すでに妊娠を考えている女性やカップルが、もう一度、自分の身体を見詰め直す機会を提供するためのセミナーを開催。

「なぜ、現在妊娠しづらい女性が増えているのか？」「その原因はなんなのか？」「どうしたら安心して妊娠、出産する事が出来るのか？」という問題は、単に個々のカラダの事だけではなく、女性の妊娠・出産、育児と仕事の両立の難しい社会構造に問題がある

ことも忘れてはいけない課題であり、妊娠しづらい現状はなぜ起きているのか？を、このセミナーをきっかけに、また違った視点からも考えてもらう事を目的とした。

2. 事業内容

実施内容：『知ろう！私のカラダ☆セミナー』
～産婦人科医からいつか妊娠する女性へ“今”あなたに聞いて欲しい！～

① 講演 講師：内田律子（静岡レディースクリニック院長）

内容：「女性のカラダと妊娠」をテーマに、女性のカラダの仕組みや卵子の老化の事、不妊治療の詳しい説明や不妊に関わる病気について

② 質疑応答

③主催者より挨拶

実施日時：平成 25 年 11 月 10 日（日）14：00～15：30

実施場所：パルシェ（JR 静岡駅ビル）7 階 D 会議室

対象者：将来妊娠を考える女性、夫婦、カップル



質疑応答 会場は参加者でびっしり

3. 事業の実績

参加者：58 名（女性：53 名
男性：5 名～内カップル 4 組～）

4. 事業の効果

今回、将来妊娠するかもしれない女性やそのパートナーを対象に、女性のカラダについて、不妊専門の産婦人科医の先生より教えてもらうことで、参加者には、改めて妊娠する前から自分の身体と向き合う事の大切さを実感してもらう事が出来た。

また、学校で学ぶことが出来ない不妊治療の詳しい説明などを聞いてもらうことで、婦人科に行きづらいと思っていた方に、婦人科に行く事が難しいことではないと認識してもらうことが出来たり、妊娠前の検査が受けられることを知ってもらうことが出来た。

そして質疑応答では、約10名ほどの参加者より、妊娠前のブライダルチェックや、卵巣年齢検査についてや、普段の生活で気を付ける事は？など具体的な様々な質問があり、今回のセミナーテーマの関心の高さをうかがえた。

総括：今回のセミナーはテーマが幅広く、参加者も年齢やご自身の置かれた状況が違うため、セミナーに求める物もそれぞれであることが分かった。それが、満足度の評価に反映されていると思われる。今後は、もっとニーズや対象者を絞って、テーマを明確にし、セミナーや講座などを開催するべきだと感じた。しかしながら、多くの方に不妊のこと、女性のカラダの仕組みや、妊娠出産のことなど、貴重な話を聞けてよかったと言ってもらえるよいセミナーとなった。



ウーマン・ラボ 代表 有賀久美

最後に、妊娠しづらい女性が増えている背景には身体のことだけではなく、女性を取り巻く社会全体に問題があることを呼びかけた。



2013年11月13日 静岡新聞朝刊

11/10 知ろう！私のカラダ☆セミナー アンケート結果

Q,今回セミナーに参加された動機、理由は？	性別・年齢
普段教えて頂く機会がありませんので、聴きたいと思って。	20代女性
結婚して5年になりますが、子供ができず不妊治療に通っています。専門の先生から直接お話を聞くことが出来ると知り参加しました。	30代女性
以前から妊娠・出産に興味があったため(不妊治療に通ってます。)	30代女性
結婚前に、自身の身体について、女性特有の病気や注意点などを勉強できたらと思い参加しました。	30代女性
周りでも同じ悩みの人がいて、今できる事を具体的に聞きたかった。	40代女性
Q,セミナーの感想、意見など	性別・年齢
ご自身が不妊治療経験のある先生のお話でしたのでお話が伺えて勉強になりました。もっと若い(学生のころなど)に学校などでも教えるべき内容だと改めて思いました。	20代女性
体外受精へのステップアップを考えているので具体的な方法を聴くことが出来て参考になりました。	30代女性
参加出来て、勉強になりました。産婦人科には通ってるのですが、なかなか質問ができず困ってました。ありがとうございました	30代女性
今回だけでなく、このような機会を若い頃に少しでも早く、そして私たちの年代の者にもより詳しい知識として知る機会を作って頂きたいと思います。	40代女性
内田院長が医師を目指した理由などを聞きたかった	50代 女性
男性にも不妊の原因が多くあることを知り驚きました。	20代男性
早めに婦人科に行き、いろいろ検診を受けに行きたいと思います。基礎の基礎の話をもっと聞きたいという思いもありました。	20代女性
セミナー前は婦人科に行きたいと思っていたが、婦人科に通う事に迷いや行きづらさがあったが、今日のお話を聞いて、行ってみようと思えるようになった。とても良いきっかけとなりそうです。	30代女性
男女で参加すると良いと思ったが、現状男性が積極的にこういったセミナーに参加しづらいことも社会全体の問題としてあるのかなと思った。男性に対し、社会全体に対しても、このような機会があると良いと思った。	30代女性
今の時代背景など、どうしたら妊娠しやすくなるのかという話をもう少し聞きたかった。	50代女性
先生のお話がとても分かりやすかったです。また機会があれば参加したいです。	30代女性
妊娠のメカニズムや不妊症、その検査判定についての理解を深める事が出来ました。女性ホルモンのバランス維持やフィードバックを良好に保つために役立つもの(食生活や過ごし方など)も聞いてみたいと思いました。	30代女性
高齢出産についての話をもう少し聞きたかったです。	40代女性
お話の資料などが欲しかった。不妊のことについて良く知らない事が多くあったので、大切なお話が聞けて良かったです。	30代女性
体外受精についてもっと具体的に聞きたいと思ったので、静岡レディースクリニックの説明会に行ってみたくと思いました。	30代女性
不妊の原因についての話が主だったので、なぜ現在妊娠しづらい女性が増えているのかなどのお話をもっと聞きたかった。	20代女性
専門的な内容を順序立てて分かりやすく説明して頂きイメージしやすかった。可能な範囲で事例紹介などがあると良かったかもしれないです。	30代女性
産婦人科は結婚していないとなかなか行きづらい所ってイメージがあるので、セミナーで先生のお話を聞けて良かったです。	30代女性
自分の身体について、よく知らなかったなあと感じました。妊娠出産と知っているようで、どういうしくみで妊娠するのか初めて分かったことが多くありました。	30代女性
Q,こんなセミナーがあったら参加したい、こんな企画があったら良いなど、意見を聞かせて下さい。	性別・年齢
妊娠しやすい身体づくりや気を付ける事など。	30代女性
女性の冷え対策講座	50代女性
妊娠初期や流産についての不安を減らすようなセミナー	30代女性
Q,本日のセミナーの内容はどうでしたか？	
とても満足した:11名 満足した:27名 あまり満足しなかった:2名 無回答:12名	
Q,今回のセミナーはどこで知りましたか？	
チラシ:9名 FB:6名 あざれアナビ:3名 HP:2名 知り合いの紹介:21名 新聞:7名 その他:3名 無回答:1名	
Q,今回、どなたと参加されましたか？	
一人で:25名 カップルで:0名 夫婦で:8名 友人と:14名 その他:5名(親子、姉妹)	

平成25年度静岡県助成事業 あざれあ地域協働事業

産婦人科医から いつか妊娠する女性へ “今”あなたに 聞いて欲しい!

“いつか”の為に“今”知ってほしいこと
知ろう! 私のカラダ★セミナー

11/10 日 受付13:30～
開演14:00～15:30

開催場所: **パルシェ** (JR静岡駅ビル) 7階D会議室
静岡市葵区黒金町49番地

参加費
1,000円
(当日現金払い)

なぜ妊娠しづらい女性が現在増えているのか? 原因は何なのか?
卵子の老化ってナニ? 妊娠の仕組みは? など
「女性のカラダと妊娠」について、先生の解りやすい説明で、
あなたのモヤモヤがすっきりするかも!
そして、「いつか」のために「今」出来る事が具体的にわかる!
きっと、「あの時、聞いて良かった!」と「いつか」思えるはずです。

将来、結婚、妊娠をする
20代～30代の女性

もうすぐ結婚を考える
女性やカップル

これから子作りを考えている
女性や夫婦

こんな方に聞いて欲しい!!

趣味や仕事に打ち込み
「まだ子供はいい!」と考える女性

...etc

娘のために
聞いてみたいという方もOK



講師

静岡レディースクリニック
内田 律子院長

[profile] 不妊症専門の医師でありながら自身も
不妊症で悩み、人工授精と体外受精を何回か経て
ようやく妊娠し、現在一児の母となる。自らの経験
も踏まえ、不妊症で悩む方々のニーズに応えるため
に現在のクリニックを開設し、院長を務めている。

申込方法

1 メールでのお申し込み ariga.mk@gmail.com

(1)お名前 (2)ご住所 (3)電話番号 (4)メールアドレスをご記入頂き、上記メールアドレス宛にお申込み下さい。

2 FBイベントからも参加お申込み可能です。

<https://www.facebook.com/events/141598252714311/>



FBページこちらから

【お問合せ先】ウーマン・ラボ ariga.mk@gmail.com HP: <http://woman-lab.jimdo.com/>

主催: ウーマン・ラボ 共催: NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会議 協働: オリーブblz

NPO i-OLIVE

代表 柴田弘美

働き女子のほっとカフェ



1. 事業理念

社会人として日々仕事をこなす若い女性たちは、意欲的に講座等を受けたくても受講できる時間帯に行われている講座が少なく、また民間のビジネス講座等は高く、経済状態を考えるとなかなか受けることもできない。

新しい出逢いも少なく、どうしても既存の人間関係に埋まりがちで、行き詰まり感を持つ女性はいくつかある。

そんな働く女性たちの、新たな『出逢いの場を創造する』ことが昨年から続く「働き女子のほっとカフェ」企画の一番の目的である。大勢の若い女性たちが金曜夜にあざれあに集まり、リラックスした雰囲気の中で、同席した参加者同士がコミュニケーションを楽しむ。

今年はさらに、3回とも、実践心理学（NLP）を学んだ講師による講座とし、実際にコミュニケーション力をアップするコツなども、盛り込んで行く。なかなか言葉に出来ない女性の悩みも、ゆったり自分と向き合うことで、自分も他者も認め、自身の新たな魅力を引き出すきっかけとなることを目指す。

この企画講座を通して女性たちは、自らを見つめ、頑張っ

ている自分を認めると共に、心と体の両面からリフレッシュすることができる。そして、女性同士の思いを共有し共感しながら、コミュニケーション力をアップすることができる。さらに、「また明日からがんばろう」という思いでそれぞれの日常に戻り、前向きに仕事や人生に向かうことが期待できる。

2. 事業内容

■第1回 10月11日（金）18：30～20：30

参加者：14名

内容：「Let's ベジフルコミュニケーション」

講師：ジュニア野菜ソムリエ 有賀久美

野菜を楽しむポイントや、美味しい野菜の見分け方をレクチャー。グループに分かれ自己紹介をし、参加者同士のコミュニケーショ



ンも楽しんでもらいながら、旬のかぼちゃを各グループに分かれて観察、調理した。その後、軽食を食べ、NLPの簡単なワークを実施した。

■第2回 11月22日（金）18：30～20：30

参加者：21名

内容：「マインドマップとカラーコーチング」

講師：カウンセラー 山崎里美

マインドマップ（放射状に考える脳の思考を、そのまま紙に描き出すもの。右脳左脳の両方を使い、創造力、記憶、ストレス解消、脳トレなど様々な効果があるとされている）の描き方をレクチャーした後、自己紹介のマインドマップを作り、参加者同士シェアしながら交流を楽しんで頂いた。

また、カラーコーチングで潜在意識を少し覗いて、それもお互いにシェアし、NLPのワークも行った。

■第3回 12月13日（金）18：30～20：30

参加者：20名

内容：「日本茶クリスマスパーティー」

講師：日本茶感性トレーナー かなざわゆう

緑茶や国産紅茶を使って、アレンジティーやフレーバーティーを実際に作り味わった。パーティーの場を盛り上げるコツや、他者と



コミュニケーションを取るコツ等を紹介。1回目と2回目に行ったNLPワークの復習しながら、パーティーゲームとして楽しんだ。

3. 事業の効果

■第1回

第1回目は、簡単な調理やグループでのワークを取り入れたことで、いろんな方とコミュニケーションが図れ、「職場以外での刺激をもらった」との声もあり、参加者には楽しくリフレッシュしてもらう事が出来た。

【参加者構成】20代：1名 30代：8名 40代：2名 50代：3名

【本日のセミナーは楽しかったですか？】

・とても楽しかった：11名 楽しかった：1名 無回答：2名



- ・明日から前向きにがんばれそう。
- ・自分を知るといことの一つのツールとして取り入れたい。
- ・新たな発見があり楽しかった。
- ・心がすっきりした。

■第3回

第3回目は、参加者も場になじみ、また会場もパーティ設定で音楽を流すなど、和気あいあいと和んだ空気が生まれた。また、ゲームを取り入れることで盛り上がり、笑いも多くなった。1,2回で行ったNLPワークを復習する形だったため、連続参加の方は振り返りとなり、また初回の方にも理解して頂き、3回連続の良い流れが出来た。

【参加者構成】

20代：1名 30代：6名 40代：5名
50代：2名 未記入：1名

【本日のセミナーは楽しかったですか？】

・とても楽しかった：11名 楽しかった：5名

【本日のセミナーはどこでお知りになりましたか？】

・チラシ：3名 あざれあナビ：1名 知り合い：8名 FB：3名

【以前にもあざれあを利用されたことがありますか？】

・ある：11名 無い：3名



【アンケート感想】

- ・お茶でリラックス、発見できました。和んだ雰囲気がよかった。
- ・一番苦手な人間関係、コミュニケーション。少し何か改善できるかもしれないと思えた。
- ・フルーツティーはいつも買って飲んでいましたが、こんなに簡単に作れることが分かったので、家でも作ってみます。
- ・ディップが美味しかった。優しい気持ちになれた。
- ・前から楽しみにしていたので、ワクワクしていたが、結果やっぱりすごく楽しかった。お茶を探しに行こうと思います。
- ・チャンクアップゲームがおもしろかった。落ち込んだ時に前向きになれる気がした。
- ・お茶の話、アレンジティ、NLPの話をさりげなく説明して頂いたので、分かりやすく心の中にすっと落ちた感じ。
- ・チャンクアップは、自分のステップアップに、役に立ちそう。
- ・楽しく学べてよかった。
- ・日本茶や紅茶の淹れ方飲み方の工夫を知り、大変勉強になった。オシャレディップ等料理もいただけうれしかった。
- ・3回ともに出席した。3回目の余裕かBGMステキでした。料理もいつもおいしかった。
- ・本日の日本茶パーティ、サプライズを頂きました。

4. 総括

今回、働く女性達に向けて、日々の仕事から解放された場を提供し、新たな『出逢いの場を創造する』ことを目的として、3回に分けて「働き女子のほっとカフェ」を開催した。

多くの若い女性達に、リラックスした雰囲気の中、NLPを取り入れたコミュニケーション力をアップするスキルを、参加者同士段階を踏んで体感してもらいつつ、それぞれの講師から野菜、マインドマップとカラーコーチング、日本茶について、楽しく学んでリフレッシュしてもらうことができた。

3回のリレー形式で行った今回の講座は、各講師の専門分野にNLPのコミュニケーションワークを加えた形で構成した。NLPとは、米国で開発された五感を活用したコミュニケーションの手法。これを活用することで、職場の人間関係を円滑にすることもできる。コミュニケーションの講義は一度では理解されにくく、回を重ね角度を変えながらお伝えすることで受講生の理解が深まっていくため、リレー形式でのセミナーにした。

■第1回 Let's ベジフルコミュニケーション

野菜料理と、コミュニケーションの基本となる、観察力を磨くワーク

■第2回 マインドマップでカラーコーチング

マインドマップと、抽象度をあげその人にも見えていない本当のニーズを導き出すワーク

■第3回 日本茶クリスマスパーティー

日本茶のアレンジと、場作りのコツ（ゲーム形式での、上記ワークの復習）

1回目、2回目のNLPワークを、3回目ではパーティーゲームとして取り入れたことで、遊びながら復習する機会となり、1・2回の講座に参加していない方々にも体験して頂くことができた。一度きりの講義ではないため、

反復することでコミュニケーションに対する理解が深まった。また、伝える講師が毎回変わることで、同じ内容でも伝え方が変わるため、受講生は、咀嚼することが出来たように感じられた。

アンケートからも、この講座を受けることで、「刺激をもらえた」「自分のステップアップに役立ちそう」「苦手なコミュニケーションが改善しそう」「自分を知るということの一つのツールとして取り入れたい」など、改めて自分や他者と向き合ってもらうことができ、自身の新たな魅力を引き出すきっかけになったのが分かる。

講師陣も、引き継ぎながら講座を構成するため、安心出来る環境でセミナーを開催することができた。また、スタッフとしての連携も回を重ねる度にスムーズとなり、各講師一人では到底出来ないような、完成度の高い時間を共有できたと関係者一同が感じている。

最後に、今回参加してくれた働く女性達に、食とお茶で満足度をあげた「ホッとしたひととき」を提供し、リラックスした環境の中でコミュニケーションの問題を解決する方法を体験して頂けたと考えている。本講座のコミュニケーション手法を実践されることで、職場での一番の問題である「他人とのコミュニケーション」を円滑にし、働く事への意欲にも繋がったのではないかな。それが、「女性の働きやすい社会作り」の一步に繋がっていくことと願う。



楽しく学べてリフレッシュ！
働き女子のほっとカフェ

平成25年度 静岡県助成事業・あざれあ地域協働事業

毎日お仕事をがんばっているあなたへ。
 美味しいお茶を飲みながら、楽しいひと時を一緒に過ごしませんか？
 3日間限定のカフェで、スペシャリストがお待ちしております。



料金 10月から12月、月1回全3回コース 各先着30名様
3講座チケット → 1500円 3講座で
 よりオトクに！
 2講座チケット 1200円 / 1講座チケット 800円

1講座からでも、受講できます。

日程
 第1回 10月11日(金)
 第2回 11月22日(金)
 第3回 12月13日(金)
 ※いずれも18:30～20:30です。
 場所：あざれあ 生活関連実習室
 〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1

【第1回 Let's ベジフル コミュニケーション】

講師 ジュニア野菜ソムリエ 有賀久美

《内容》季節の野菜と触れ合いながら、野菜の観察、簡単な調理、
 食べ比べをします。野菜を通してコミュニケーションを楽しみましょう。

【第2回 マインドマップでカラーコーチング】

講師 カウンセラー 山崎里美

《内容》マインドマップを利用した自己紹介や、カラーの力を用いて心のメンテ
 ナンスをしながらコミュニケーションを楽しみましょう。

【第3回 日本茶クリスマスパーティー】

講師 日本茶感性トレーナー かなざわゆう

《内容》日本茶でクリスマスを演出！お茶を飲みながら、コミュニケーションを
 楽しむコツをご紹介します。

※3名とも、米国 NLP 協会認定 NLP プラク・マスター資格取得



【Let's ベジフル コミュニケーション】

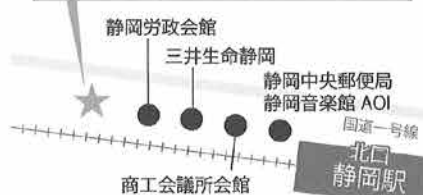


【マインドマップでカラーコーチング】



【日本茶クリスマスパーティー】

男女共同参画センター あざれあ



毎日お仕事で忙しい女性たちに… いろんな方たちとのふれあいの場に…
 癒しの空間で、楽しくお喋りしながら日々の疲れをリフレッシュしませんか？

10月から12月、月1回全3回コース

3講座チケット 1500円 2講座チケット 1200円 1講座チケット 800円

場所：あざれあ 生活関連実習室 〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1

主催：NPO i-OLIVE

共催：NPO 法人静岡県男女共同参画センター交流会議

協働：オリーブ biz ワールドカフェ with しずおか 茶話の会

お申し込み・お問い合わせ方法

「下記メールアドレスに

①お名前②参加希望日③参加人数④ご連絡先をご記入の上、お送り下さい」

ココロメンテナンス

メールアドレス kokoromaintenance@yahoo.co.jp (担当：山崎)

facebook イベントアドレス 「働き女子のほっとカフェ」 →

参加はこちらから!!



NPO 法人
世界女性会議ネットワーク静岡
代表 守屋秀子

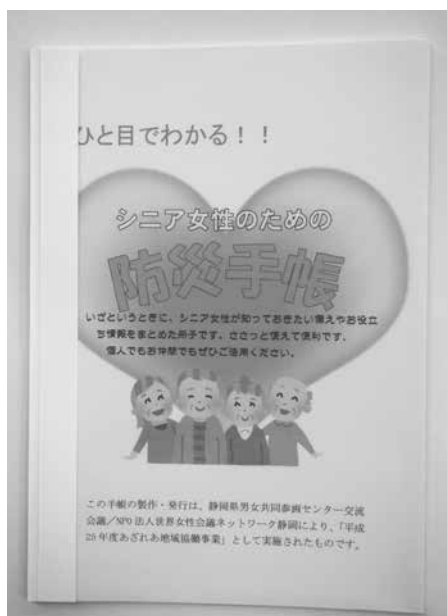
「シニア女性のための 防災手帳」



1. 事業の目的

南海トラフ巨大地震への不安が消えないなかで、地域・職場・家庭・個人など、あらゆるところでの実際に役立つきめ細かな災害への備え・防災が、ますます必要になっています。この事業では、人災害の際に、とりわけ困難な状況におかれがちなシニア女性を対象に災害時に想定される状況を具体的に予想し、知っておきたい情報や対応策を詳しく、そしてイラストなどを多く使って、具体的にわかりやすく掲載した冊子（シニア女性のための防災手帳）を制作・発行・配布し、シニア女性が災害時にあっても、安全、安心を最大限確保していくための支援ツールとして活用します。

『ひと目でわかる!! シニア女性のための防災



手帳』の主な内容

- ・「日ごろからの備え・防災グッズの準備」
- ・「いざというときの対応・地震が起きた時」
- ・「避難生活のノウハウ・自宅の場合と避難所の場合」
- ・「緊急時に必要な情報の入手方法」
- ・「緊急時に必要な情報の持ち歩き」
- ・「被災時の防犯」
- ・「まわりの人たちと力を合わせて～あなたにもできること」等

2. 事業の内容

『シニア女性のための防災手帳』の制作・発行・配布及びインターネットを活用した発信を行います。

- (1)防災手帳発行に際し、シニアの方（70代4名）に集まって頂き、防災に対する不安や、常にどのようなことを心がけているかを話し合う「シニア情報収集会議」を開催しました。
- (2)企画会議を次の6回開催しました。

平成25年9月20日、10月17日、11月15日、22日、12月6日、12月9日

- (3)制作の時期 平成25年9月制作開始し、12月初旬発行しました。

- (4)発行部数は200部です。

- (5)「あざれあナビ」に掲載していただき、多くの人々に活用していただきます。

3. 事業の効果

シニア女性が多いグループや団体に配布し、学習会のテキストとして活用していただいています。世界女性会議は、会員一人ひとりがそれぞれの地域でグループを有し、リーダーとして活躍していますので、防災手帳の活用を広範囲に進めることができます。

すでに学習会を終えたグループや今後予定しているグループは次の通り。

掛川市葛が丘自治会

静岡市国吉田自治会いきいき教室

栗原老人会・谷田老人会

木久学院原川教室

静岡市するが女性の会

中島団地自治会・老人会

一般社団法人・母子寡婦福祉会

大学女性協会

浜松市萩の会

グループデコパ

WE ネット

など

(その他)

県外の団体との連携として北京 JAC 地域コーカスなど。

先進事例として参考にさせていただいた川崎市との連携。

4. 実施した感想

(1)編集者たちの感想

①日本全国どこに住んでいても災害に備える準備は皆同じ。先進事例を参考にさせていただいたが、それほど違いがあるわけではない。

②災害に関する不安をなくすために、このように分かりやすい冊子が必要ですね。この冊子をぜひ、役立ててほしい。

(2)冊子を手にした人たちの感想

①各ページ、頭に項目が大きく書いてあり、

自分が一番関係する項目から読めて、大変良いですね。

②こと細かに、それぞれの場面に合わせて準備することが書かれているのを見たのは初めてで、安心しました。心の準備が出来るように身近に置く事が出来ることは嬉しい。

③来る、来る、と言われていて風化しているみたいだけど、いざという時、役に立つかな。すぐ見えるところに置いておくよ。

④避難所などで、並んで何かを頂くのも、なかなかおっくうだ。老人は何をするにも遅いだよ。わかってもらいたいね～。



「木久学院原川教室」で手を休め、防災手帳に熱心に目を通す生徒さんたちと 80 歳を超えた先生



静岡市国吉田自治会で役員に説明する会員

株式会社レ・サンク
代表 田嶋清子

「ハーブ&ドロシー」 上映会とミニ講演会



佐々木芽生監督

1. 事業目的

30 年以上にわたり、現代アートコレクションをしてきた、おしどり夫婦の足跡をたどる感動の映画と、その内容にあったミニ講演の開催を通して、アーカイブすることの大切さと、自らのやりがいや充実感をもたらす、ワーク・ライフ・バランスをとりいれることで人生に、輝きと地域社会への貢献に繋がることについて考える。また、アーカイブをする資格者「デジタル・アーキビスト」の仕事についても紹介。資格者を創出する養成校としての視点から、アーカイブやアーキビストへの関心の喚起につなげる。

2. 事業内容

「ハーブ&ドロシー」上映及びミニ講演会

映画は、郵便局員と図書館勤めの夫婦が、つつましい給料からアート作品を買い集め、やがて世界屈指の現代アートのコレクション



に…そして最後は全てをアメリカの国立美術館に寄贈していくという、おしどり夫婦の足跡をたどる感動の映画と、その内容にあったミニ講演の開催により、その人にとっての宝物、資産（歴史、記録写真なども）アーカイブすることの大切さと、ワーク・ライフ・バランスや「共同作業（夫婦、家族、親子）」について考えると共に、デジタル・アーカイブについての関心をたかめてもらう。どんなものでも歴史があるということ、目的をもって記録する、蓄積することの意味を考える。

【方法】事前に入場整理券（資料代）を購入後、上映会とミニ講演会を実施。

映画を監督された佐々木芽生氏を招いてのトークセッションを実施。

【実施時期】平成 25 年 10 月 14 日 13:00～16:30

【実施場所】男女共同参画センター「あざれあ」502 会議室

【対象】静岡県民一般、美術・芸術に興味がある方、アーカイブに興味がある方等

【参加人数】27 名

【連携】女性起業家真価プログラム、0～100 いきいきフォーラム

3. 当日のプログラム

● 13:00 主催者挨拶

静岡県男女共同参画センター

あざれあ交流会議長野蝶子理事

● 13:05 ~ 13:35

第1部 講演

「アーカイブの大切さと記録することの意味」

株式会社レ・サンク 上級デジタル・アーキビスト 坂本洋代

● 13:35 ~ 13:45

休憩 上映準備

● 13:45 ~ 15:15

第2部 映画上映

「ハーブ&ドロシー」配給協力プラスディー

● 15:15 ~ 15:30 休憩

● 15:30 ~ 16:30

第3部 監督講演並びにトークセッション

出演：佐々木芽生監督

株式会社レ・サンク社長 田嶋清子

司会：株式会社レ・サンク 坂本洋代

佐々木監督 基調講演 30分～35分

- 1) 作品をつくられた経緯
- 2) 撮影中のエピソード
- 3) これからつくりたい作品についてトークセッション

「自らの充実感と地域社会に貢献するワーク・ライフ・バランス」

- 1) この作品をワーク・ライフ・バランスとして取り上げた理由

※夫婦2人で共通の楽しみ（アートコレクション）を続けながら、働き、生活に潤いを与えるワーク・ライフ・バランスを実践してきたことが、地域社会への貢献につながっているということ。



あざれあ交流会議長野蝶子理事挨拶



左から佐々木監督、田嶋清子さん、坂本洋代さん

・監督からは

- 1) 佐々木監督ご自身のワーク・ライフ・バランスについて
- 2) 今回この映画をワーク・ライフ・バランスとデジタル・アーカイブについて取り上げたことについて

監督ご自身はどのようにお考えになるかを伺った。

4. 事業実績

現代アートコレクションをしてきた、おしどり夫婦の足跡をたどる感動の映画上映と、その内容にあったミニ講演の開催を実施。ミニ講演ではアーカイブすることの大切さと、自らのやりがいや充実感をもたらす、ワーク・ライフ・バランスをとりいれることで、参加者に対して、人生に輝きをもらし、地域社会への貢献に繋がることについて考えていただくことを提案。また、講演の中で「デジタル・アーキビスト」の仕事についても紹介。資格者を創出する養成校としての立場から、アーカイブやデジタル・アーキビストにも関心を高めてもらうことを目的として事業を実施。

参加対象は、学芸員、図書館司書並びに、アーカイブを知らない、一般の方にいたるまで、参加されることを期待し、募集を実施。「ハーブ&ドロシー」の映画は、クリエイターを始めとする、文化、芸術に携わる方を中心とした、

コアなファンが多く見られるため、結果として、県職員、アーティストから一般層に渡る参加となり、そういう意味での目標は達成できました。

トークセッションは、監督の人柄もあり、リラックスしたムードで開催できました。質問も、映画制作にかかわる専門的な内容から、佐々木監督の働く女性としての生き方にいたるまで、時間ぎりぎりまで活発な意見が交わされ、講演終了後も佐々木監督に意見を聞き「今日の話を聞いて、元気をいただいた」と参加者が講師である監督に気持ちを伝えている姿を見かけた。

5. 事業の効果

期待される効果としては、アーカイブ、アーキビスト、ワーク・ライフ・バランスなどに、上映作品を通して、関心を高めることであるが、アンケート並びに講演後の話の中からアーカイブという仕事が社会に確実に広がっているという事は、理解していただけた。中には機会が合えば、アーカイブについて学びたいという意見もあり、そういう意見や興味をとりこぼさない工夫が今後必要であることを強く感じた。また、地域の歴史、記録について記録を残すという意識の醸成も喚起できた。

ワーク・ライフ・バランスにおいては、それについて情報をもっていない層に対して（一般層）映画上映、監督とのトークセッションにおける話の中で、それを実践することで、輝きのある人生の実現に貢献することに繋がれることを、わかりやすい言葉でアピールできたことを実感します。

基本的に、今回参加していただいた方々は、「ハーブ&ドロシー」の映画のファン（佐々木監督のファン）が中心であり、何回目かの視聴



であるという参加者が多い中、映画そのものを知らない、あるいは今回初めてという方にとって、どこまでこの講演の意味を伝えることができるのが不安だったが、終わってみれば、映画に対しては、「ますますファンになった」「こういう世界を知る事ができて嬉しかった」「続編を見たい」という言葉を聞く事ができた。

そういった中で、「ハーブとドロシー」をきっかけに、アーカイブやワーク・ライフ・バランスについて、興味のない、知らなかった方に対して、情報を伝えることができたので、本来の目的は達成できたと思う。

映画上映と講演だけに終わらず、監督の基調講演をいただけたことが、最大のポイントであった。多忙な中、短期の帰国の間を縫って、講演を承知していただいたが故に、日程の調整に手間取り、参加者の募集告知、誘引活動がおろそかになってしまい、参加者を予定人数集客できなかったことについては、猛省すべき点であります。

講演後に参加者より、続編を希望するという声を聞きました。そのことを監督に報告したところ、「呼んでいただければ、喜んで伺います」と心強い言葉をいただきました。

アーカイブやワーク・ライフ・バランスのフォローアップの意味も含め、ぜひ続編を計画したい。

静岡県助成事業 平成 25 年度 あざれあ地域協働事業

ごく普通の市民が、全米の美術館に 5,000 点近いアート作品を寄贈した！？
奇跡を起こした情熱の老夫婦、ハーブとドロシーに拍手喝采！！
ふたりだからできた、誰もやったことのないこと



定員 70 名

A FILM BY MICHIO SAKAKI
HERB & DOROTHY

ハーブ&ドロシー

アートの森の小さな巨人

上映会

講演会

デジタル・アーカイブ
ワーク・ライフ・バランス

ニューヨークで 17 週のロングランを記録し全米で熱狂的に迎えられた話題作！
「ハーブ&ドロシー」の上映と佐々木監督トークセッション

佐々木芽生監督をお招きしての トークセッション

「ハーブ&ドロシー」
監督・プロデューサー

30 年以上にわたり現代アートコレクションをしてきた、おしどり夫婦の足跡をたどる感動のドキュメンタリーを通して、
アーカイブすることの大切さと、自らのやりがいや充実感をもたらすワーク・ライフ・バランスについて考えてみませんか？

2013. **10.14** Mon

時間 13:00~16:30 受付 12:30

会場 静岡県男女共同参画センター

「あざれあ」6F 小ホール
静岡市駿河区馬淵 1-17-1

事前申し込みが必要です

定員 **70 名** (申込先着順) 詳しくは裏面をご確認ください
入場料 **500 円** (当日受付にてお支払い願います)
対象 静岡県民一般、美術・芸術に興味がある方
アーカイブに興味がある方、無い方でも。
問合先 株式会社レ・サンク 坂本・根津
tel.054-273-5500

共催：特定非営利活動法人 静岡県男女共同参画センター交流会議 / 株式会社レ・サンク
連携：女性起業家真価プログラム、0~100 いぎいきフォーラム

県東部文化交流会・和岡田一子^{なごみ} 代表

イクメンとバーの子育て奮戦記



久保田さんご一家

1. 事業の理念

イクメンパパ、イクヂーと、夫や祖父が自発的に子育てを担う意識が高まった。一方男女の固定的役割分担意識はまだ強い。

子育ては、男女共に喜びも責任も分かち合い、愛情をもって互いの個性や能力、人格を尊び支え合って成長する。経験知を生かして地域につながる子育て応援が出来ることを期待したい。

2. 事業の内容

【講演と意見交換】

「愛」にささえられて
「イクメンとバーの子育て奮闘記」

公務員退職後、妻の勤める病院に緊急搬送されてきたひとりの赤ちゃんとの出会いが、



あざれあ交流会議 大川須津子代表理事 挨拶

その後の夫婦の人生を 180 度転換させ、老夫婦共働きで 15 年間子育てに奮戦。

(イクメンとは) 男女共同参画事業の活動の中で生まれた新しい言葉。

イクメン：子育ての主役を担う男性

カジダン：家事の主役を担う男性

●講師：久保田 庄次さん

裾野市里親の会 代表世話人

●日時：10月20日(日) 13:30～15:30

●参加者：49名、久保田さんご一家 3名

●実施場所：千本プラザ 大会議室

●参加者：49名(定員50名)

男性 8名 女性 41名

講師一家：3名

高齢者になっても深い愛情と経験知で子育て支援は可能であることを15年間の講師の奮闘談から多くを学んだ。勇気づけとなった。

●実施にあたって、連携・協働した団体

沼津市

第五地区コミュニティ推進委員会

千本常盤町自治会防犯パトロール隊

沼津山楽会

3. 事業の効果

10月は里親月間であることから講師の久保田氏ご一家総出で本当の家族のあり様を連携プレーで伝えてくれ、参加者は大変感激！！

講師の用意して下さったレジュメと静岡県「里親ってなあに？」のパンフレットで里親制度について多くを知り学ぶことが出来、子育て支援の視野が広がった。

多くの試練や苦悩を越えてきたイクデー・バーの奮闘からは、今後の子育て応援の勇気と知恵、心をいただいた。



熱心に話を聞く参加者

参加者もこの日の感動を大切に社会参加への動機づけとなったとアンケートより知ることが出来た。

【アンケート集計結果】

回答者 30人（参加者 49人）

- ①性別 女性：22人 男性：8人
- ②年代 50代（3人）、60代以上（27人）
- ③講演会はいかがでしたか
 - （1）興味深かった（17人）
 - （2）良かった（13人）
- ④子育て支援をしたいと思ったことはありませんか。

- （1）ある（18人） （2）ない（4人）
- （3）無回答（8人）

⑤あなたのできる応援は？（抜粋）

- ・子育て中の里親さんの子育ての手伝いをしたいと思っている。
- ・里親になられた方の相談に乗ってあげたい。
- ・2、3日お預り出来ることだと思う。
- ・市内小中学校への読み聞かせを月1、2回させて頂いております。
- ・自分の子供をしっかり育て見守ること。
他人の子に対しても何か関わる機会があればやってみたいと思います。
- ・遊びの手伝い
- ・自分の孫を守るのに大変だった。
自分の家の子供は自分の家で守ることだと思います。
- ・ある家庭教育の会に入っていますので、徳育や倫理を学びます。子育て真っ最中のお母さん達にふれていただきたいと呼びかけている。お勉強中は子守りをしたりしています。



代表挨拶

⑥講演を聞いて学んだこと、気付いたこと、新しく知ったこと、ご自由に感想をお書きください。

- ・本当の子供以上に愛が注がれていることに感激した。
- ・これからは今までの生活を見直したいと思う。
- ・人生感謝の心が育つ家庭生活が大事と実感しました。

・「家族の合言葉」「夫婦の生活信条」素晴らしいです。

・私達もイクメンジー、バーの毎日ドタバタの日々です。これからの毎日頑張っていると思います。

・温かい心で見守ってあげることが大切だと思いました。同じ目線にたって行動したいと思います。

・出会いの意味を考えながら1日1日を大切に生きていきたいと思います。

・目を開き、感情をみがき、余命を有意義に生きていこう。

・子供の成長と親の心構え、親子さんを見て感じさせられます。

・裕子さんの明るい笑顔を見せて頂き、ご両親の愛情がいっぱい注がれていることを感じとることが出来ました。

・ほのぼのとした家庭の様子が感じられ、常に希望を失わないことの大切さを学びました

・人生すべて時間が解決することが分かり、裕子さんのしっかりした笑顔が私達にも強く人生に対して力になりました。



講師の久保田庄次さん

・最後の奥様のお話、心にしみました。私も臍を多分、子供たちに押しつけていました。

・久保田さんのお話、とても感動的でした。素晴らしい親子のきずなを感じました。

・人間の「愛の大切さ」感謝します。

・久保田さんの温厚な人柄が満ちあふれている講演でした。



静岡県助成事業

平成25年度あざれあ地域協働事業

講演と意見交換会

「愛」にささえられて

イクメンチーとバーの子育て奮闘記

夫や祖父が子育てや家事をする意識が高まっています。

公務員退職後、妻の転勤(国立病院)で出会った1人の小さな命を老夫婦共働で子育てに奮戦。

性別にかかわらず、自ら主体的に子育てに関わり、互いの人権を尊重しあう男女共同参画の視点を考え身近な地域社会の子育て応援をしませんか！！

講師 久保田 庄次 氏(1936年石川県生れ、裾野市在住)

プロフィール ・ 裾野市行政改革推進委員

- ・ 裾野市男女共同参画推進市民委員
- ・ 裾野市里親の会 代表世話人

日時 : 10月20日(日)13:30~15:30

会場 : 千本プラザ大会議室

参加者 : 一般男女50名(申込み順)

会費 : 無料(申込み必要)

問合せ先: 県東部文化交流会・和(なごみ) TEL/FAX:055-963-0056

主催 : 県東部文化交流会・和(なごみ)

共催 : NPO法人 静岡県男女共同参画センター交流会議

協働 : 沼津市・第五地区コミュニティ推進委員会

千本常盤町自治会防犯パトロール隊

沼津山楽会

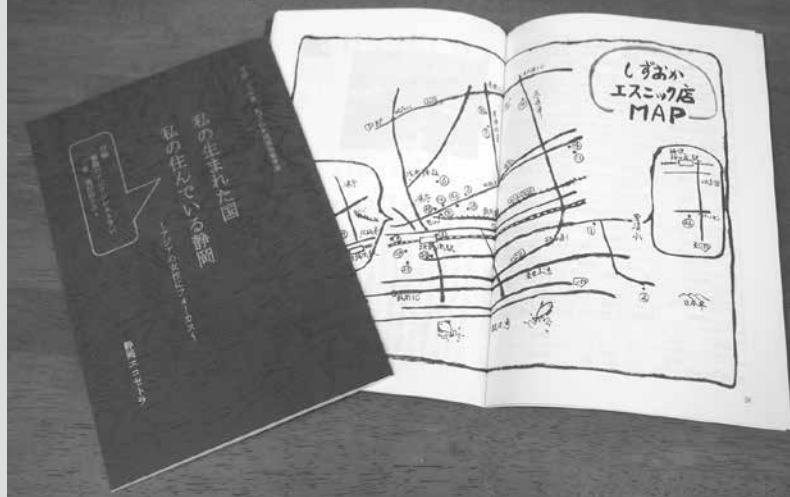
参加申込書 (FAX 055-963-0056)

県東部文化交流会・和(なごみ)

氏名	電話・FAX

静岡エコセトラ
代表 入江とし子

「私の生まれた国 私の住んでいる静岡」



1. 事業の目的

静岡市内に 10 年近く在住するアジアの女性にインタビューして、彼女たちのライフストーリーを聞くことから、アジアの女性達の生きざま知る。

静岡に住むわたし達へのアジアを身近に感ずるインパクトとする。

各国の女性たちにも静岡の女性を知ってもらうチャンスとしたい。

2. 事業の内容

インタビューしたアジアライフストーリーを冊子にまとめる。静岡在住のアジア圏内の女性、個々にインタビューする。

(どこの国の女性がどこに在住しているのかから始まった。まず思い浮かぶのは、エスニック料理店だったのでリストをアップし 連携する団体、個人への申し入れや聞き込みを行った。)

どのような事を聞きたいか質問事項を列挙し検討していった。(質問票は p.26)

個人面接方式なので、場所や日時はその都度連絡し合いながら行うことになった。8 月 9 月の 2 カ月でインタビュー相手を決める事にし、10 月からだいたい 2 人くらいで随時随所という計画をたてた。

おおよその質問内容を伝えて了解を得られ

たらインタビュー日時を決めていく。(写真撮影についても)

●実施にあたって連携・協働した団体

S W O S の会

エコハウス

国際交流協会内(個人協力者)

F A S (アジアを考える静岡フォーラム)

アジアの女性にフォーカスして

入江 とし子

この日本の小都市 約 70 万人の静岡市に外国人の方たちをよく見かけるようになって久しくなりました。アメリカ人やヨーロッパ人の方たちをはじめアジア系の男女、親子、家族の方々が街を歩いています。しかし、隣国の韓国や中国の人達とすら直接話をする機会やきっかけがないまま渾然と暮らしに溶け込み受容していました。(国や政府間の政治問題や歴史問題も個人レベルでは何の問題もなく暮らせてきていますし)。キムチを食べ、ナムルや小籠包のアジアの食を愛でています。

今回調べてみると、静岡市に住んでいる外国人(7947 人)の中で、アジアの国々をアップすると中国 2143 人、韓国・朝鮮 1631 人、フィリピン 1159 人、ミャンマー 353 人、ベトナム 348 人、ネパール 212 人、インドネ

シア 208 人、タイ 112 人、スリランカ 109 人、台湾 97 人、バングラデシュ 59 人、インド 41 人、パキスタン 33 人でした。しかも市内には、アメリカ、イギリス、カナダ、ペルー、ロシア以外に 660 人以上 66 カ国の方が住んでいるということです。この数字の中にどの位の女性がいるのかと考えると聞きたいことは山ほどあります。日本語をかなりマスターしている方達との出会いに助けられたとはいえ、当然アジアの方々と友好を結ぶにも直接的に話し合えた事は、とてもうれしいことでした。互いに身ぶり手ぶりで談笑が楽しかったです。まず文化交流を盛んにし、互いに知り合う中で、それぞれの国の歴史や育まれた考え方を理解し合い、認め合うことを重ねたいと思いました。2ヶ国語3ヶ国語を断片ながら理解できている事も驚きでした。バイタリティ溢れている女性たちです。

自分の住んでいる近くにはベトナムや韓国の服、カバン、帽子等現地に出かけ購入し開店している方（日本の男性）もいますし、アジアの中の日本なのだとつくづく思いました。エジプト料理のお店で女性オーナーは？とお聞きした折、女性にこだわるのはおかしいと言われてショックでした。来日して暮らしている女性は、気概があり積極的、大陸的気風、明確、硬骨漢で気骨があるなと強く思いました。

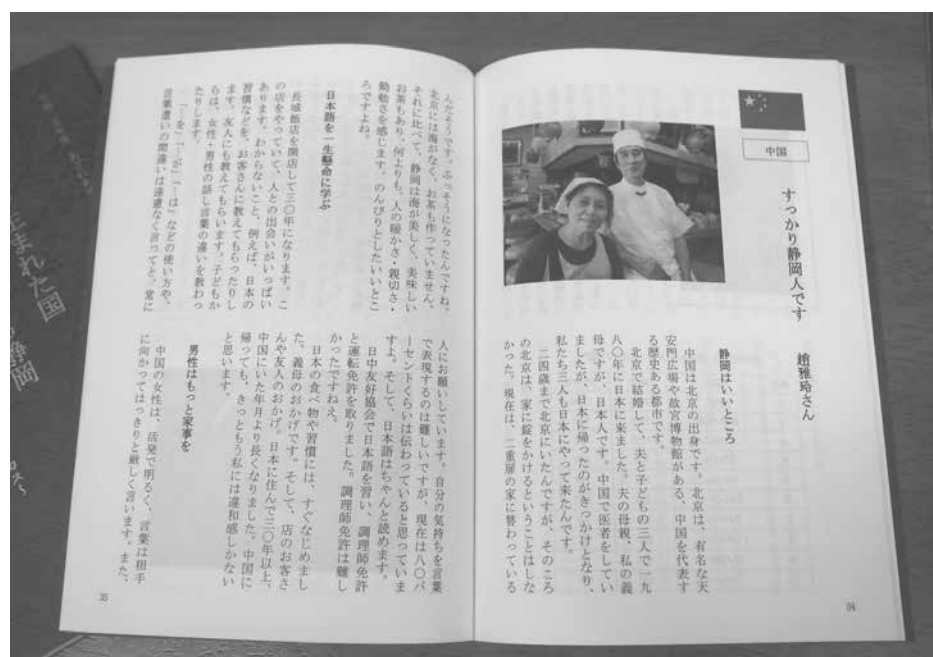
※資料「S A M E」
(NO107) 静岡市
外国人住民数

お茶マップからアジア女性への聞き書きへ

佐久間 美紀子

昨年「あざれあ地域協働事業」に選定されて「静岡お茶マップ」を作成したのだが、その過程でお茶の販売にかかわる多くの女性たちにインタビューした。私たちのほとんどにとって初めての経験だったこともあり、自分たちの足元にこんな貴重な仕事や人生があったのか、と驚いたり、人間はみなそれぞれ自分だけの物語を持っている、と聞き惚れたりした。マップには使えないが、捨ててしまうのが惜しいような話もあった。

たとえば、ほんの数十年前、まだ機械化されていない頃のお茶摘みは大変人手のいる作業だった。主要な労働力は出稼ぎの女性。新茶の季節は他の農家も農作業に忙しいので、出稼ぎに行くのは用宗とか焼津などの漁村の女性たちが多かったそう。面白いのは、このお茶摘み出稼ぎ、女性たちの年に一度の楽しみだった、ということ。何しろ正々堂々と





家を空けられるし、行き先は毎年決まっているので他の出稼ぎ女性たちとも顔なじみだし、夜にはおしゃべりや情報交換で盛り上がり、何というか女子運動部の合宿みたいな雰囲気だったらしい。なので、出稼ぎは必要ないような裕福な家の奥様まで率先して出かけて行った、という。

こんな話を聞けば、私たちが思い浮かべる出稼ぎの暗いイメージは一面的であったことに気づかされるし、女性の働き方の新しい面も見えてくる。そうしてそれ以上に、地域史や個人史は面白い、話を聞く作業も楽しい、と思うようになったのだった。

それもあって、次回は聞き書きをやりたいと考えていた。いろいろ話し合った末、私たちが知りたいと思っており、また比較的簡単に興味を持てる話が聞けそうだと、ということで在静外国人女性を対象にすることにした。やるならやっぱり欧米ではなく同じアジア、近頃は街で見かける機会もずいぶん増えているし。そんな風に決まっていた。知り合いもツテも、全然ない中でのスタートだった。

●アジアンレストランへの取材

この頃身近なアジアと言うと、たいていの人が思い浮かべるのはアジアンレストランではなかろうか。私たちもそうだった。だから、レストラン探しから始め、そこを手掛かりにすることにした。まず客として行って食事をする、機会をうかがって話しかける。たいていみなさん、快く応じてくれた。そして空いている時間を聞いて再度訪問しインタビューする、という段取り。

なにしろ素人なので、どうやったら話を引き出せるのか心もとない。なので、あらかじめ質問票を作って行った。

- ① あなたの出身はどこですか。(国&地域)
- ② そこはどんな所ですか おくに自慢をしてください。
- ③ 日本に来るまでの来歴・生活を、できる範囲で教えてください。
- ④ いつごろ、何のために日本に来ましたか。
- ⑤ 静岡の印象は？ 日本では静岡以外にも住んだことがありますか。
- ⑥ 静岡ではどんな暮らしをしていますか。(困ったこと、よかったこと、工夫していること。たとえば、家族・住居・食べ物・買い物・付き合い、など)
- ⑦ 故郷を懐かしく思うのはどんな時(もの・こと)ですか。
- ⑧ 日本人(静岡人)は、あなたに対してどんな対応をしますか。
- ⑨ あなたの国の女性の状況はどんなですか 昔(住んでいた時)と今(最近帰った時)との違いはありますか。
- ⑩ 日本(静岡)の女性とあなたの国の女性と比べてください。
- ⑪ 日本(静岡)の男性とあなたの国の男性と比べてください。

⑫ 女性の状況で、一番変わってほしいのはどんな点ですか。

⑬ 男性の状況で、一番変わってほしいのはどんな点ですか。

⑭ 静岡でのこれからの暮らしについて、どんな希望を持っていますか。

しかし、これは実際にはあまり役立たなかったようだ。こちらがメモを見ながら質問するのも待たずに、自分から熱心に話し出す方がいたり、あるいは、まだ日本語がおぼつかないので部分的に通訳（男性）が必要なため、聞きにくく、また答えにくかろうと幾つかの質問をスルーしたり。しかし話してくれた内容はどれもみな興味深いものだったし、みな話すのを楽しんでくれたと思う。もちろんそれらの話は社交辞令もあろうから、額面通りに受け取ってはいけないのかもしれないが。

原稿ができてから掲載を拒否されたのが2件、取材自体を拒絶されたのが1件あった。その理由こそ、聞き出せばたぶん一番面白い話になるに違いないのだが、どこまで踏み込むべきか、押すべきか、加減が全然わからない。結局、そのまま引き下がった。インタビューという手法の難しいのはこの点だろう。

●気が付いたこと、やり残したこと

調べているうちに気づいたこともいくつかある。まずマレーシア・インドネシア・フィリピンの人に出会えなかったこと。レストランもないし、あってもスタッフが日本人。タイ料理は人気が出たが、他国料理はそんなでもないからか、それとも、仕事の選択にも国別の気風のような何かがあるのだろうか。

インドレストランを幾つか訪ねて男性スタッフに聞くと、みな家族は本国にいますという。インドの学校では英語での授業が主だというから、日本語を学べても英語ができなく

なれば仕方がないと、日本の学校に入れるのは躊躇するのだろうか。日本の家族も、子どもの教育のことを考えて夫が単身赴任を選ぶことが多いけれど、それに通じるのかもしれない。子どもを連れてきたい、そのために静岡にもインターナショナルスクールがほしい、という意見があって、これは本当に切実だと思った。

近頃、コンビニやスーパーのレジ係にアジア系の人を見かけることが多くなった。たぶん、彼らに取材すれば、また違った話が聞けただろうと思う。ただ、レジやカウンターに立っている彼らはいつも忙しそうで、気楽に声をかけにくい。あるいは、工場労働者として来ている人も多いだろうが、これは接点がみつからなかった。結局、レストラン関係者を中心にするという消極的な選択となって終わった。

また、外国人女性への聞き書きというなら、いわゆるじゃばゆきさん達への取材も外せないはずだ。そうした女性は静岡にも大勢いるはずである。彼女たちに話を聞くことができれば、女性問題が一番端的に表れてくるはずである。裏の静岡が見えてくるはずである。が、これは情けないことながら初めからあきらめていた。要するにびびったのである。反省といえば、これが最大の反省だろう。

思い通りにいかなかった取材

大石 美代子

私はタイと中国の女性を取材する担当だった。タイの女性も中国の女性も、本当に明るくって話が大好きで、取材の私たちにたくさん、たくさん話をしてくださった。なんというおおらかさ、明るさ。これはどこからくるものだろうか。「大地の力強さを思わせる素朴

な女性」それが第一印象だった。

とにかく膨大な量の話の中から原稿を作り上げた。それを持って、取材の本人に見ていただき訂正の箇所を指摘してもらおうと、大雨の中、雨コートを着て自転車で伺った。ところがすべて暗転した。『掲載してほしくない』と、ただそればかりを言われる。説得できない“何か強い”意思を感じ取って、雨の中帰ってきた。力が抜けた。

個人的なことが活字となって公にされることへの怖さを感じてしまったのだろうか。それは、日本人として生まれ、日本という国で生きてきた私にはきっと理解できないことなのだろうと思った。この国の中にいれば、日本人というただそれだけで守られている何かがあるのだ。

防衛本能とでもいったらよいのか、外国という地で生きていくには自己を守らなければ、少しの危機も回避して生きていく姿勢が不可欠なのだろう。あの明るさの後ろには、外国で生きる、用心深くならざるを得ない繊細な神経が隠れていたのだと知り、深く考えさせられた。

だがしかし、彼女たちの明るさ、おおらかさ、強さには変わらない。改めてお店に出向き、もっともっと話をしたいと思う。冊子が出来上がったならそれを持って、中国料理やタイ料理を食べに出かけよう。

その国の「食文化」でつまずく？

大国 田鶴子

私は食べ物の好き嫌が多く、年を経るごとに1つずつクリアしてきたが、どうしても「だめ」な食べ物が、パクチとナンプラー。ああ、考えるだけでも、ゾ～ッ。

というのに、取材の下調べでタイ料理店へ

行くことに。さて、どうしよう。「行きたくない」とごねてみたが、仲間たちは「来なくてもいい」と言わない。なんて冷たい奴らだ。

外観は強がりの軽やかさで、内心すごすごと出かけたが、店内は、ほらやっぱり、ナンプラーの匂いがプンプンしているじゃないか。ナンプラー・パクチ大好きの仲間たちは、楽しそうだ。「何食べる？ おいしそうだよねえ」などと、大はしゃぎ。

おずおずと、注文取りのタイ人のおじさんに、ナンプラーもパクチも食べられないので、はずして欲しいと頼む。「な～んだ、心配いらない。そんな人、いっぱいいるよ」と、肩をポ～んとたたかれた。とたん、“すごすご気分”が痛さと共にどっかへ飛んでいってしまった。

おかげで、野菜たっぷりの麺を美味しくいただくことが出来た。

タイの食文化では欠かすことのできない、パクチとナンプラー。それを食べることが出来もしないで、タイのことを取材して書く資格があるのか？

同じ思いを抱きながら、ベトナム料理店へ。取材は楽しく、彼女の持つエネルギーに圧倒されながら、共感の鈴が心の中で響き渡った。とてもいい取材だった。と思っていたが、後日原稿を読んだ彼女から「あのね、パパがちょっと困ると言っているから、これ、やめてもらいたい」と、連絡が入った。う～ん、こっちだって困るぞ。が、日本人社会の中で、気を遣いながら生活をしているだろう彼女たち夫妻の姿が見えてくる。とてもいい話だったが、割愛することに。いまでも残念。心残りの取材であった。

これは、決して食文化を食べることが出来なかったから、では「ない」。

デートDV防止啓発連続講座 「これってデートDV？」



1. 事業目的

女性や子どもに対する暴力の根絶に向けて様々な取り組みがなされているが、まだまだ女性に対する暴力は年々増加の傾向にある。また昨今、配偶者間以外の若いカップルの間で起こるデートDVが増加し、学校現場でも問題になっている。

今講座では、一般県民を対象に、相談や医療の現場で実際に若年層に関わっている講師の連続講座を開催し、デートDVとは何か、またデートDV理解のため、思春期青年期の発達心理について学ぶ。すべての人が安心して安全に生活できる男女共同参画社会の実現を目指すために、デートDV・DVについて理解を深めた人を一人でも多く地域に作っていくことを目的にする。

2. 事業内容

<全4回連続講座>

■第1回「デートDVとは」

実施日時：8月17日（土）10時～12時
実施会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ会議室

講師：萩山瑞穂（特定非営利活動法人 Safety First 静岡）

■第2回「思春期・青年期の心とからだ」

実施日時：8月31日（土）10時～12時
実施会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ会議室

講師：新谷真弓さん（特定非営利活動法人 S R R P 研究会代表）

■第3回「デートDV 10代の性」

実施日時：9月8日（日）13時～16時
実施会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ会議室

講師：上村茂仁さん（ウィメンズクリニックかみむら院長）

■第4回「ピアカウンセリングについて」

実施日時：9月21日（土）10時～12時
実施会場：静岡県男女共同参画センターあざれあ会議室

講師：光本恵子さん（特定非営利活動法人 リプロダクティブヘルス研究会）



萩山瑞穂（特定非営利活動法人 Safety First 静岡）

■まとめ「連続講座の振り返り・デートDV防止プログラム作りに向けて」

実施日時：9月29日（日）10時～16時

実施会場：静岡市女性会館アイセル21アトリエ

講師：Safety First 静岡デートDV防止プロジェクト実行委員会



新谷真弓さん（特定非営利活動法人SRRP研究会代表）

3. 事業の実績

■第1回 参加人数：29人（女性26人 男性3人）アンケート22枚回収

1. 講座のテーマについて

とても興味が あった	興味があった	初めて聞いた
18人	4人	0人

2. 今回の内容は

とても分かり やすかった	分かった	よく分からな かった
19人	3人	0人

- ・事例が多くて分かりやすかった。
- ・IT機器にまつわる話にショックを受けた。
- ・被害者心理について、よく分かった。

3. この話を聞いてもらいたいのは（複数回答）

子ども	保護者	学校関係 者	行政関係 者	その他
17人	17人	16人	11人	1人

4. 意見・感想など

- ・デートDVはどんどん低年齢化している。大学生、高校生になってからでは少し遅いのもかもしれないという危機感をもって取り組んでいく必要性を感じている。
- ・子どもたちがすごい環境に生きているんだなあということを改めて知ることができた。親もその中でいきているので、子どもにも保護者にも聞いて貰いたいと強く感じた。
- ・予防していくことが必要と感じた。地域で共有することが大事だと思った。

■第2回 参加人数：35人（女性33人 男性2人）アンケート27枚回収

1. 講座のテーマについて

とても興味が あった	興味があった	初めて聞いた
13人	14人	0人

2. 今回の内容は

とても分かり やすかった	分かった	よく分からな かった
12人	15人	0人

- ・事例が具体的で分かりやすかった。
- ・発達段階、家族の病理の視点が分かりやすかった。

3. この話を聞いてもらいたいのは（複数回答）

子ども	保護者	学校関係 者	行政関係 者	その他
11人	19人	12人	6人	4人

4. 意見・感想など

- ・子どもを理解することから始まることがわかった。
- ・若い世代への心理教育は可能性に満ちているし、その可能性を信じたいと思った。

■第3回 参加人数：42人（女性40人 男性2人）アンケート35枚回収

1. 講座のテーマについて

とても興味が あった	興味があった	初めて聞いた
28人	7人	0人

2. 今回の内容は

とても分かりやすかった	分かった	よく分からなかった
33人	2人	0人

- ・子どものリアルな心情が分かりやすかった。
- ・子どもへの接し方のヒントがあった。

3. この話を聞いてもらいたいのは(複数回答)

子ども	保護者	学校関係者	行政関係者	その他
30人	26人	22人	14人	1人

4. 意見・感想など

- ・DV加害者、被害者両方にさせないために予兆の段階でひろいあげることができればと思う。
- ・講義の中で「寂しい」という言葉をたくさん聞いた。家族間で寂しさを感じて、寂しさを表現することがとても大切だと思った。
- ・「自己肯定感という言葉は人を追い詰める」という言葉にはっとした。

■第4回 参加人数：26人（女性25人 男性1人） アンケート19枚回収

1. 講座のテーマについて

とても興味があった	興味があった	初めて聞いた
9人	10人	0人

2. 今回の内容は

とても分かりやすかった	分かった	よく分からなかった
16人	3人	0人

- ・体験型セミナーの良さがわかった。
- ・相手の気持ちを知ることができた。

3. この話を聞いてもらいたいのは(複数回答)

子ども	保護者	学校関係者	行政関係者	その他
18人	9人	12人	5人	0人

4. 意見・感想など

- ・人とのコミュニケーションをとることの大切さ難しさと、心の変化など体験できた。



光本恵子さん
(特定非営利活動法人 リプロダクティブヘルス研究会)

- ・グループワークがよかった。ネゴシエイトは良い取り組みだと思った。

4. 事業の効果

毎回、多数の参加者が熱心に講師の話に耳を傾けていて、暴力防止への関心の高さが窺えた。参加者も、保護者・学校関係者・相談員など幅広く、遠方からの参加者も多かった。現代の若者の考え方や友人との付き合い方を理解し、若者の話を聴くことがデートDV防止につながっていくことを学んだ。デートDVも、DV同様に生命を脅かすような酷い事件に発展する可能性があることを知り、地域や様々な関係機関との連携が必要であることを参加者それぞれが学ぶことができた。



あざれあ交流会議 滝理事 挨拶

静岡県助成事業

平成 25 年度あざれあ地域協働事業

【デートDV防止啓発の連続講座】

これってデートDV？

最近、10 代、20 代の若いカップルの間で起こる「デートDV」が増加し、学校現場でも問題になっています。将来、深刻な夫婦間のDV(ドメスティック・バイオレンス)につながる可能性も高く、その対策が急がれます。

この講座では、デートDVとは何かについて学ぶとともに、思春期・青年期の心とからだや性についての学びを通して、私たちができることを考えていきます。

意外と身近にあるかもしれないデート DV の現状と防止について一緒に考えてみませんか。

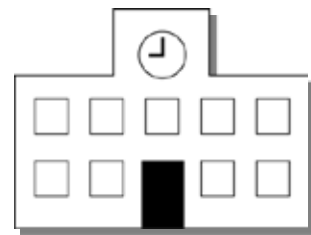
会 場： 静岡県男女共同参画センターあざれあ
(静岡市駿河区馬淵1丁目17-1)

対 象： どなたでも

定 員： 40 名 (申し込み先着順)

参 加 費： 無 料

※申し込み方法については、裏面をご覧ください。



	開催日時	講座内容・講師
第1回	8月17日(土) 10時～12時	「デートDVとは？」 特定非営利活動法人 Safety First 静岡
第2回	8月31日(土) 10時～12時	「思春期・青年期の心とからだ」 新谷真弓さん(特定非営利活動法人 SRRP研究会 代表)
第3回	9月 8日(日) 13時～16時	「デートDV 10代の性」 上村茂仁さん(ウィメンズクリニックかみむら 院長)
第4回	9月21日(土) 10時～12時	「ピアカウンセリングについて」 光本恵子さん(特定非営利活動法人 リプロダクティブヘルス研究会)

主 催： 特定非営利活動法人 Safety First 静岡

共 催： 特定非営利活動法人 静岡県男女共同参画センター交流会議 協 働： アミーぬまづ・まぎーぷらす